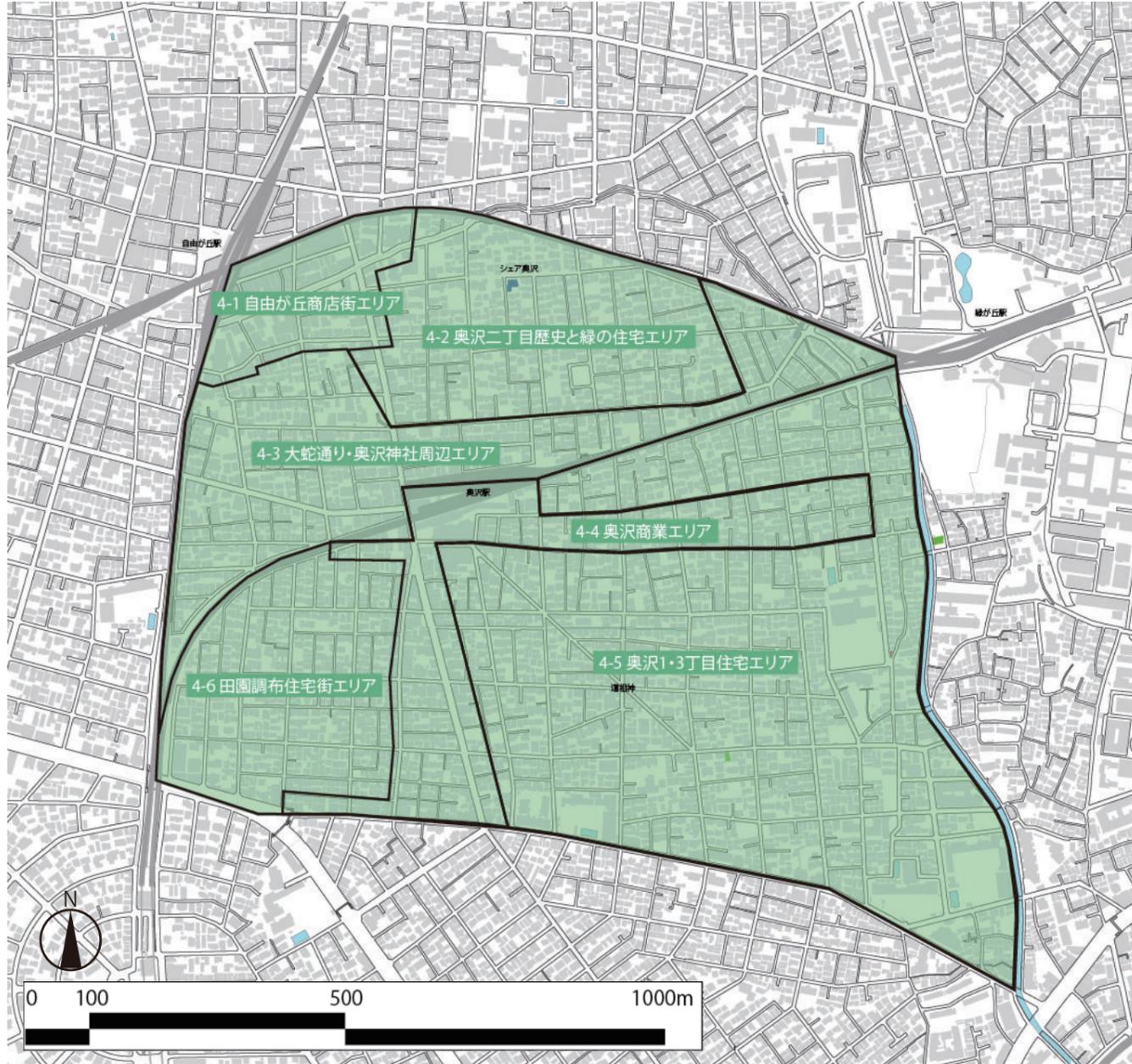


4 奥沢地区

「奥沢」という地名は、地域を流れる呑川の下流地方からみて「奥深い沢地」という意味から由来しています。奥沢地区は、東京都世田谷区の東南端に位置する奥沢1～3丁目と東玉川1・2丁目からなり、豊かな緑と穏やかな住環境が整備された地域です。この地は大正時代に多くの海軍士官が居住していた歴史を持ち、今も当時の面影を残した建物が存在しているのが特徴です。一方で、地域内には東急目黒線奥沢駅、東急東横線自由が丘駅、東急大井町線緑が丘駅の3つの駅を構え、自由が丘駅周辺を中心に「お洒落で洗練された街」というイメージを併せ持っています。



4-1 自由が丘商店街エリア
九品仏川緑道を中心とした、みどり溢れる景観の保全

4-2 奥沢2丁目歴史と緑の住宅エリア
歴史的資源と豊かな緑を生かした落ち着いた街並みへ

4-3 大蛇通り・奥沢神社周辺エリア
大蛇通りを中心とした緑の保全と住みやすい景観へ

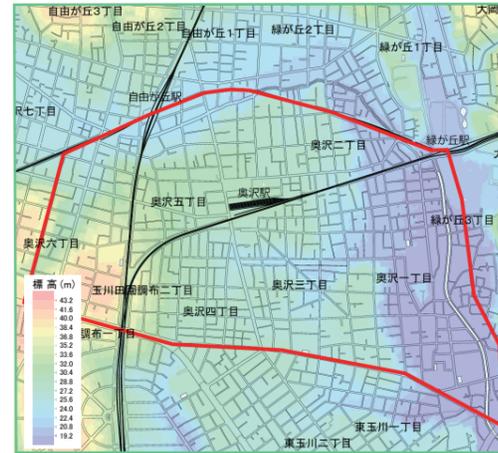
4-4 奥沢商業エリア
駅と商店街を中心に広がる緑のある景観の形成

4-5 奥沢1・3丁目住宅エリア
連続する緑と変化する街路空間によって、歩きたくなる街並みへ

4-6 田園調布住宅街エリア
直線的な街路空間と、みどり豊かな景観を活かした住宅地の形成

地区の概要

住商近接したすり鉢地形



奥沢周辺の標高

駅周辺のすり鉢地形

自由ヶ丘周辺は、九品仏川緑道を底とした、すり鉢地形になっています。坂の下は商店街、上は住宅となっていて、地形による境界線が設けられています。また、境界のエリアは一階部分が店舗の住宅が多く、商店街と住宅を繋ぐ役割があります。



【4-1 自由ヶ丘商店街エリア】
地形による商店街との境界線

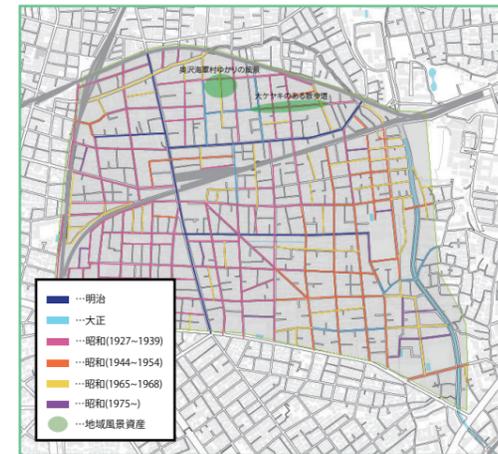
駅と駅を繋ぐ緩やかな傾斜

奥沢駅から下る大蛇通りの街路は、緩やかな傾斜とカーブが特徴的で、沿道には緑豊かな木々と落ち着いた住宅街が広がっています。道幅は比較的狭めながらも整然としていて、歩行者と車の通行が調和した静かな街並みが形成されています。



【4-3 大蛇通り・奥沢神社周辺エリア】
緩やかな傾斜とカーブの街路

歴史を伝える住宅地



街路形成と歴史的資源

玉川全円耕地整理事業

大正半ばまで近郊農村であったこの地区は、周辺地区の宅地化に伴い、住宅地への転換を予想し、現在の奥沢の基盤となる玉川全円耕地整理事業を実施しました。



【4-6 田園調布住宅街エリア】
耕地整理後の見通しの良い道

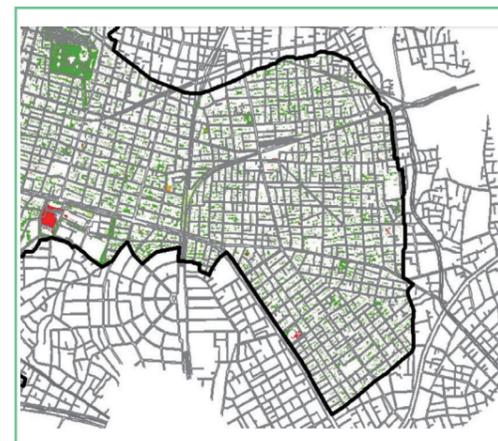
景観を形成する地域風景資産

住民によって継承されてきた街並みを創る緑や歴史的建物が点在しており、それにより良好な住環境が保持されてきた。現在でも行政、学校やNPOなどと連携した取り組みによって守り続けている。奥沢2丁目の「大ケヤキのある散歩道」や「奥沢海軍村ゆかりの風景」は世田谷地域風景資産として選定されている。



【4-2 奥沢2丁目歴史と緑の住宅エリア】
地域風景資産「奥沢海軍村ゆかりの風景」

みどり豊かな住宅地と商業地



緑被現況分布図

歴史とみどり

大正12年頃、奥沢駅周りの土地の持ち主が独力で宅地開発を行い、海軍省本部や軍港などへの地の利から海軍士官が移り住んだという背景を持つ(大正末期～昭和初期)。玄関ポーチのある近代建築やシュロの木など、当時の面影が残る街並みが見られる。



【4-5 奥沢1・3丁目住宅エリア】
当時の面影を感じるポーチ付の玄関

奥沢駅前広場

奥沢駅から南東に伸びる道路は、基盤目状の街区を斜めに横切り、緩やかな高低差や豊かな緑、建物配置が魅力的な風景を作っている。駅前には「ふんすい広場」があり、界わり形成エリアの方針に基づき、緑豊かな街づくりが進められている。

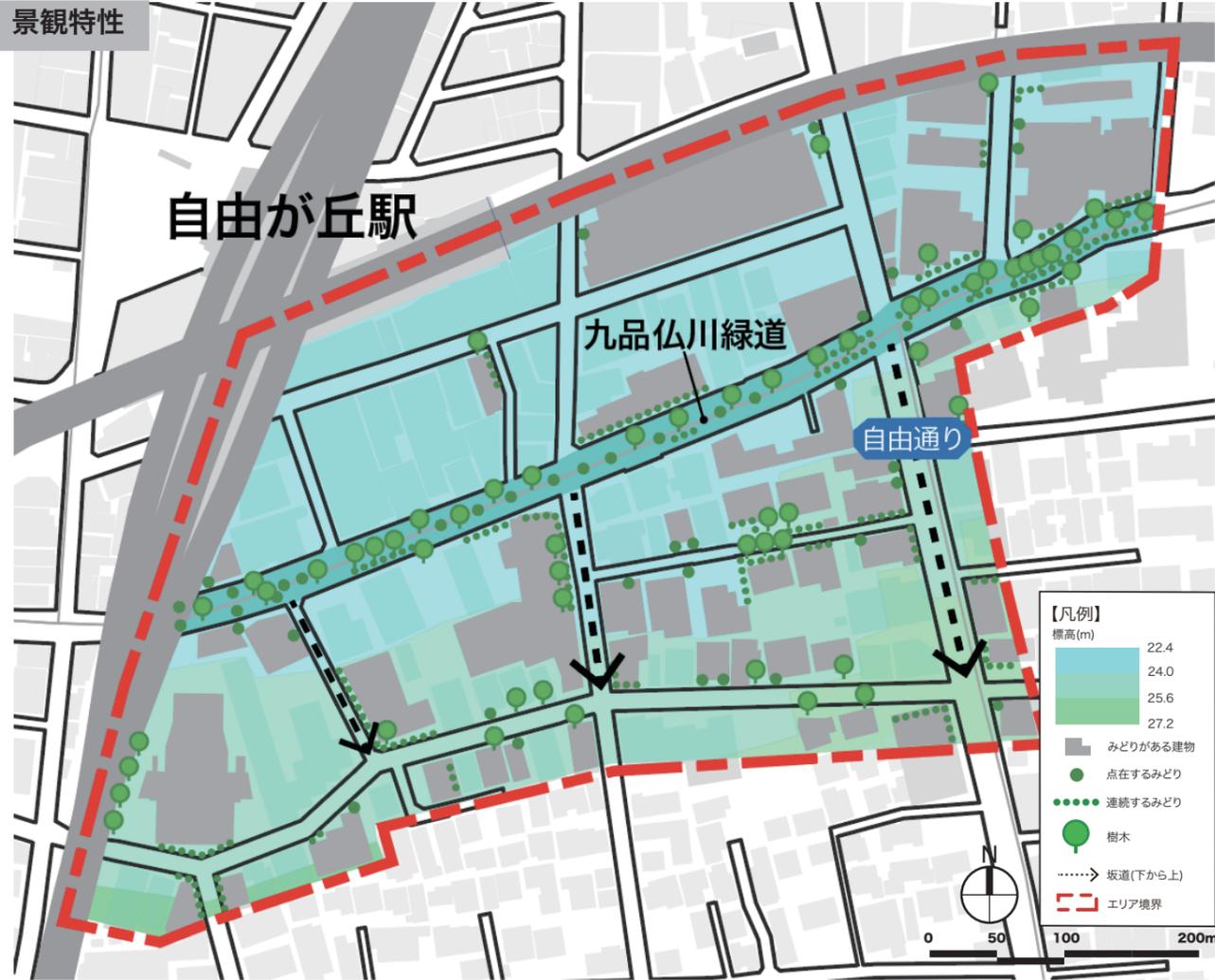


【4-4 奥沢商業エリア】
緑あふれる奥沢駅前空間「ふんすい広場」

4-1 自由が丘商店街エリア

自由が丘駅の南側に位置し、九品仏川を暗渠とした九品仏川緑道から形成される谷地形のエリアです。用途地域は商業地域で、九品仏川緑道を境に北側は駅周辺に商業施設や商店街、南側は住宅と商業が一体になった施設が広がっています。九品仏川緑道沿いは、店舗が一列に向かい合って配置されていて景観が整っています。

景観特性



1.高さの統一された駅周辺の街並み



駅前には、スーパーなどの日常的に必要な店舗から、飲食店、アパレル店など様々な種類のテナントが入っている雑居ビルが連立しています。雑居ビルが立ち並ぶ街並みであるものの、建物の高さの統一感や、舗装された道などからなっており、上品な景観になっています。

2.緑道に向かい合う商店街



九品仏浄真寺から緑が丘駅に続く、約1.6kmの九品仏川を暗渠とした緑道です。そのため、緑道を底とした高低差のある地形をしています。その沿道には、緑道に向かった店構えをする店舗が建ち並び、統一感があり、整然とした景観になっています。緑道には、植林とベンチが設置されており、空間に一体感を与えています。

3.住宅と商業が混合する街並み



マンションや、一階が商業施設が入っている住宅が混在している、自由が丘の商業ゾーンと住宅ゾーンをつなげる場所になっています。駅周辺商店街に比べると、人通りが少なく閑散とした場所となっています。道幅が広く、建物間にみどりがあることで落ち着いた景観を形成しています。

景観形成の目標

九品仏川緑道を中心とした、みどり溢れる景観の保全

本エリアは、緑道のみどりと景観の多様性を保全し、さらに引き出すための整備を行うことを目的とする。

景観形成の方針

1.緑に挟まれたエリアの緑化で地域をつなぐ

景観形成の考え方

駅北側と緑道をつなぐ商業施設にみどりを加えることで、周囲の緑に富んだ景観との調和を形成する。

具体的な方策

- 開放感のある街路を活かし、商業施設の壁面を緑化する。
- 高さ統一感のある景観を利用し、日当たりの良い屋上を緑化する。
- 商店街のグランドレベルに、緑化ルールを設ける。



壁面の緑化により緑視率を高める

2.緑道の沿道店舗の緑化を促進し、九品仏川緑道の景観軸を強化する

景観形成の考え方

緑道沿いの店舗を緑化することで景観の統一感を出し、緑道のみどりを街全体につなぐ。

具体的な方策

- 沿道店舗の緑化を進めて、緑道と呼応させる。
- 無電柱化を進めることで景観を整える。
- 緑化を沿道店舗のデザインに取り入れる。
- コミュニティ、企業参加型のみどり保全イベントを開催する。



無電柱化し緑で景観に統一感を出す

3.広い道を活かした、歩車分離された安全な緑の道を形成する

景観形成の考え方

見通しの良い開けた車道を活かし、歩道と車道の間を緑化する。

具体的な方策

- 歩車道境界に花壇を設置する。
- 植樹は低木などを利用し、視界のひらけた広々とした景観にする。
- 一階が店舗となっている建物は、一階部分をセットバックし、緑化する。



ガードレールの代わりに花壇で緑を連続させる

4-2 奥沢2丁目歴史と緑の住宅街エリア

奥沢2丁目に位置し、奥沢の魅力ある風景を守り育てるための手引きである「奥沢1-3丁目等界わい形成地区」に指定されています。その中でも本エリアの一部は「歴史と緑エリア」に定められています。

緑豊かで魅力的な住環境を保持するために、緑化や建物の色彩、工作物に関する規定を設けています。また本エリアは、大正末期から昭和初期の面影が残る街並みを見ることができます。そのため、奥沢の特徴的な「緑」に加え、この地域ならではの「歴史」を大切にしたい風景づくりを行っています。

景観特性



1. 地域を象徴する歴史的な資源



本エリアの奥沢2丁目は、世田谷地域風景資産に登録された昭和初期の住宅が残っているのが特徴です。自然を感じさせる素材や色彩と、庭先の豊かな緑は、古い家のみならず、奥沢の新しい家にも継承されています。またシェア奥沢や海軍村住宅など、地域を象徴する古い建物も存在しています。

2. 大ケヤキのある散歩道



奥沢2丁目の真ん中(12~22番)から東西にのびる道路には、大ケヤキのほかに「やまもも」や「すだじい」などの景観樹木が立地しています。この散歩道では地域のボランティアによる緑の保全活動が行われていることから、地域風景資産に登録され、未来の地域コミュニティづくりへと繋げる「地域のシンボル」の役割を担っています。

3. 道沿いの緑(庭先に広がる緑)



『界わい形成地区』の規定により、住宅が樹木や草花で積極的に緑化されている様子が見られる。それらは道沿いやアイストップとなる角地にも影響をもたらし、奥沢らしい緑豊かな風景と調和が図られている。また庭先の緑が複数点在することで、緑に連続性が生まれています。

景観形成の目標

地域固有の歴史的資源と豊かな緑を活かした落ち着いた街並みへ

みどり豊かな住宅地や歴史を感じさせる街並みなど地域固有の風景を残し、これまでの奥沢の街並みを継承する景観づくりを進め、奥沢らしさを未来にわたって繋げていくことを目的とする。

景観形成の方針

1. 歴史的資源を保存し、周辺の街並みとの調和を図る

景観形成の考え方

歴史ある資源を地域の魅力として保存・継承し、周辺環境と統一感のある街並みを形成する。

具体的な方策

- 昭和初期の住宅の外構計画の特徴(シュロの木、住宅のスケールとなじんだ一体感のある緑)を新しい建物にも受け継ぎ、周辺との調和を図る。
- 看板や自動販売機などの工作物は素材や色彩を規定し、歴史的資源と馴染んだ街並みをつくる。
- 「界わい形成地区」の手引きの色彩基準をもとに、外壁の彩度や色相、素材に配慮し、歴史的建築物との調和を図る。



昭和初期の住宅の外構計画を継承した生垣

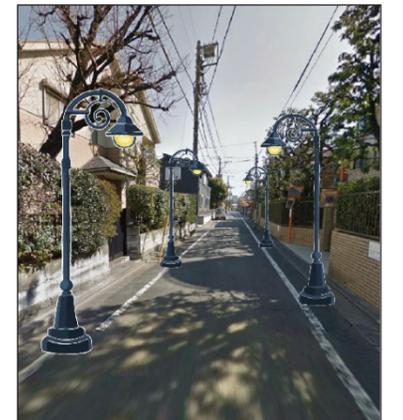
2. 象徴としての大ケヤキ通りへ

景観形成の考え方

大ケヤキのある散歩道を、本エリアの骨格(シンボル)として街並みを形成する。

具体的な方策

- 街灯が無機質感→周辺の環境と調和するような街灯デザインにする。
- 道路沿い・道路脇の緑化を重点的に行い、散歩道との緑の連続性を図る。
- アスファルト舗装からタイル・石貼舗装などに変更し、歩きたくるような街路へ



周辺環境と調和する街灯デザイン

3. 緑豊かな街並みを形成する

景観形成の考え方

庭先に広がる緑に加えて、多角的な緑化を行うことで、緑の連続性を生み、緑豊かで魅力的な奥沢の風景を創造する。

具体的な方策

- 樹木や草花による緑化に加え、壁面緑化を行うことで「緑の視認性」を向上させる。
- コインパーキング等の公共の駐車場にも「緑化ブロック」などを使用し、周辺の庭先の緑との調和を行う。
- シンボルツリーや既存の樹木の保全に力を入れる。

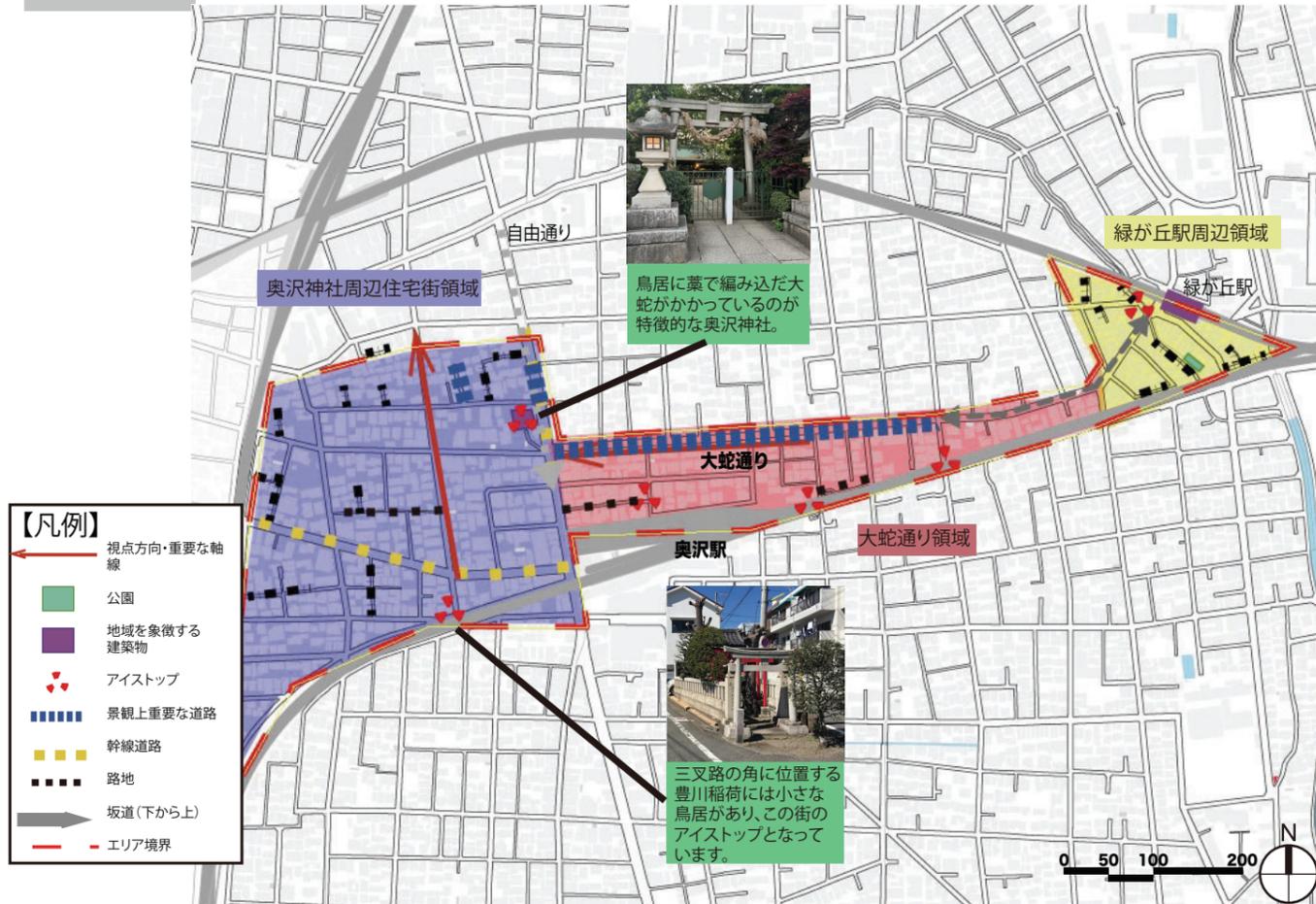


駐車場の緑化ブロック

4-3 大蛇通り・奥沢神社周辺エリア

奥沢神社や豊川稲荷など歴史資源が立地するこのエリアは緑が丘駅周辺と奥沢駅周辺が近隣商業地域となっており、これらの間に第二種住居地域である大蛇通りが通っています。エリア内は幅員の異なる道路が交わる奥沢神社周辺住宅街領域、商業店舗と緑が調和している緑が丘駅周辺領域、これらを繋ぐ大蛇通り領域の三つの特徴に分類できます。

景観特性



1. 地域の信仰の中心、奥沢神社



この地域のアイストップとなっている奥沢神社は周辺の道路景観に影響を与えています。奥沢神社周辺の住宅街では、1930年代に形成された街路を今も残しつつ、多くの住居を建てるために作られた細い道が多く見られ、その細道に沿って庭をもつ比較的新しい戸建てが多く密集しています。

2. 鳥居を中心に広がる大蛇通り



大蛇通りから奥沢神社の鳥居が見える見通しの良い景観は、昔この道が神社へ向かう道として使われていたとされます。この通り沿いは3階建て以上の建物が多くみられるが、通りから一本線路側に入ると、袋小路が多くみられ、閑静な住宅街が広がっています。

3. 店舗一体型集合住宅の街並み



緑が丘駅周辺の建物は1階に飲食店や店舗が入っているが人々の滞留も少ないです。2階以上は住居施設として利用されている建物が多く見られます。駅前の通りから少し外れると通り沿いの雰囲気とは一転して、緑と戸建て住宅が多く存在します。

景観形成の目標

大蛇通りを中心とした緑の保全と住みやすい景観へ

本エリアは奥沢神社等の歴史資源、緑ヶ丘駅から奥沢駅を結んだ大蛇通りを中心に多様な景観が特徴となっている。本ガイドラインではこの景観の多様性を保全し、さらに引き出すための整備を行うことを目的とする。

景観形成の方針

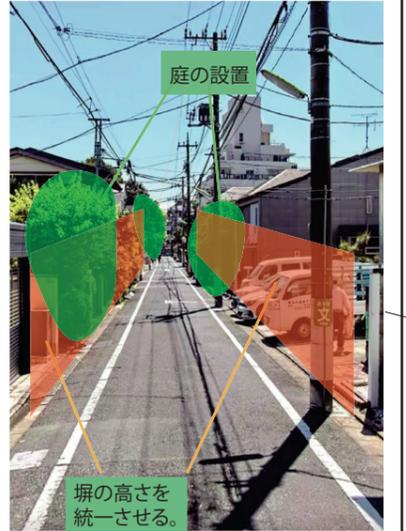
1. 閑静な住宅街の景観の保全と統一

景観形成の考え方

自由が丘駅と奥沢駅の間には立ち並ぶ閑静な住宅街における庭、塀などのガイドライン制定から景観の統一と地域の調和を図る。

具体的な方策

- 道と敷地の境目付近に庭を設置することを定めることで、景観を統一する。
- 塀の高さをアイレベルに統一し、連続性のある景観を目指す。
- 敷地分割をせずに制限を設け地域全体の環境と景観を保全する。



2. 神社とまちを調和させた景観を調和させる

景観形成の考え方

奥沢神社の前に一直線に広がる旧参道「大蛇通り」周辺鳥居が見える見通しの良い景観を保全する。

具体的な方策

- 電柱を敷地境界に寄せ、大蛇通りの見通しと景観の良さを促進する。
- 歩行者用道路の道幅の確保、駐停車禁止の規則を設けるなどで歩行者と自動車の接触を防ぎ、歩行者の安全面に配慮する。
- 大蛇通りから奥沢神社周辺までの緑と彩色を統一することで、連続性を持たせ、景観の統一を図る。



3. 緑化の推進と管理による街路景観を創出する

景観形成の考え方

緑道と、緑道沿いに茂る豊かな緑の景観を保全し、さらに自然の魅力を引き出す整備を行う。

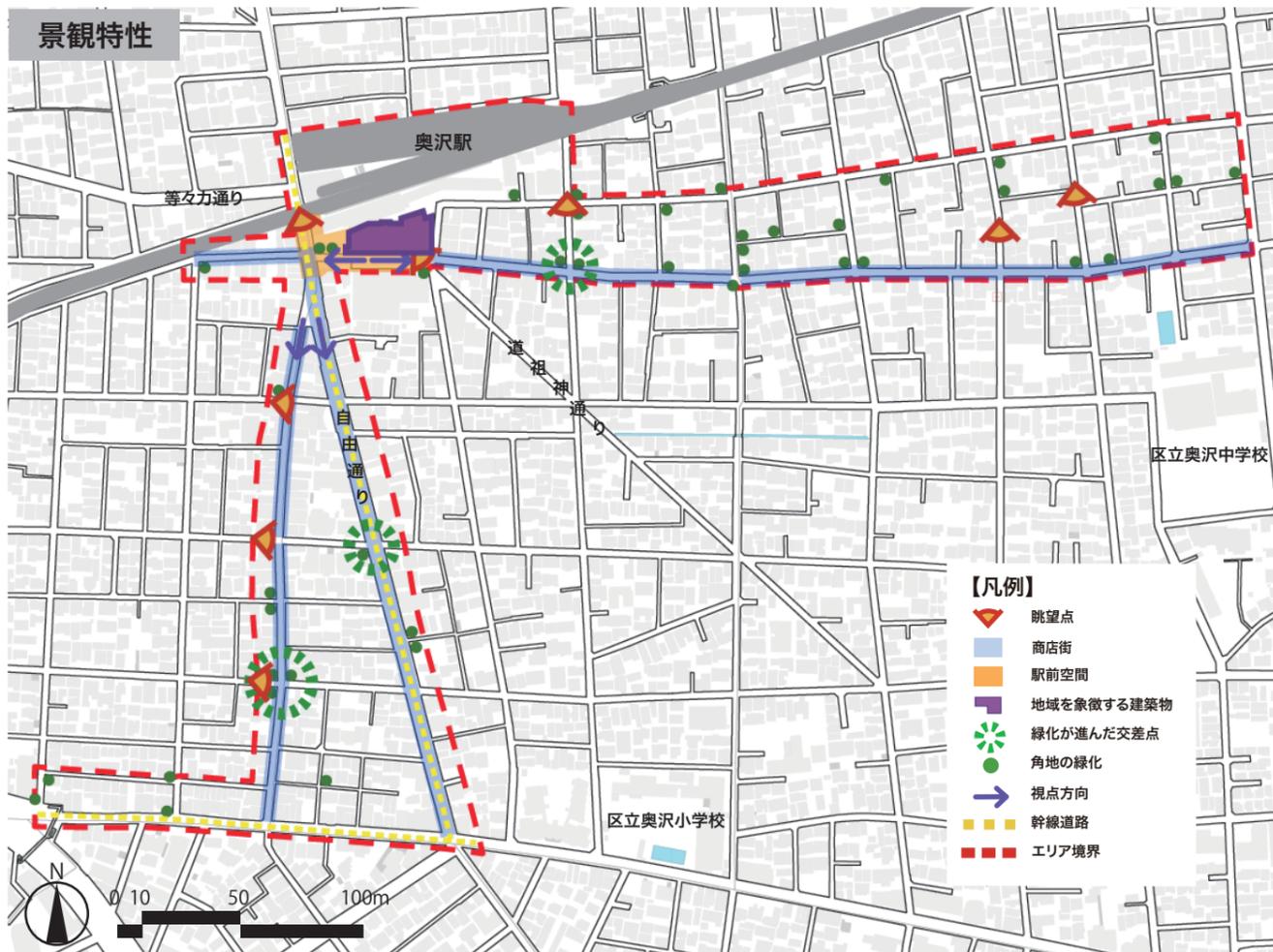
具体的な方策

- 住宅や建物以外の路肩部分に緑を増やす。
- 住宅の敷地面積20%を緑化し緑化面積を確保することで、地域全体の緑化を推進する。
- 木々の高さを制限を適切に管理し、自然を活用した景観を創る。



4-4 奥沢商業エリア

このエリアは商業地域、準工業地域、第二種高層住居地域の3つの用途地域にまたがっています。5つの商店街があるこの地域ではエリアの半分以上が商業地域となっているが、少し道に入れば住宅が立ち並ぶエリアとなっており、商店街の中でも商店と住宅の入り混じる穏やかで落ち着いた風景が見られます。商店街を中心に行われる地域のお祭りや音楽フェスティバルなど住民主体の地域活動も盛んです。



1. 商店街を中心とした景観形成



奥沢駅を中心に5つの商店街が広がっています。全体的に穏やかで落ち着いた雰囲気のある街並みが特徴的です。奥沢駅から自由通りに沿って南へのびる奥沢本町商店街では、平成15年に歩道の舗装材をインターロッキングに変える整備が行われました。建物の2階以上は住宅となっている店舗が多く、住宅と商店が混在した景観となっています。

2. ふんすい広場を中心とした空間



駅前空間は、噴水広場を中心に形成されている。この広場は、1972年に駅を改築した際に設けられた。この広場は1992年に「ふんすい広場」と名付けられ、せたがや百景にも選定されている。多くの緑が取り入れられており、界わい形成地区の方針である「みどりがつながる街の継承」に貢献している。また、駅前広場の向かい側の建物はセットバックされ、駅前の空間を形成している。

3. 交差点緑化による緑の街並み



風景づくりの方針により、角地や突き当りなどのアイストップ・視認性の高い部分の緑化や奥沢の風景になじむ樹木による緑化などの基準が設けられている。これにより多くの店舗や住宅にみどりを取り入れられた地域全体にみどりのある、地域住民の育んできた奥沢らしい街並みとなっている。しかし、緑の取り入れ方にばらつきがありみどりのつながりが希薄化しているところも見られる。

景観形成の目標

駅と商店街を中心に広がる緑のある景観の形成

景観形成の方針

1. 伝統ある商店街の保全と歩者共存空間の形成

景観形成の考え方

商店街の整備により個人経営店の立ち並ぶ昔ながらの景観を守り、人と車が行きかう賑わい空間を形成する。

具体的な方策

- 商店街の電柱を地中化することで、視界を広くし、空の見える景観を創る。
- 歩車道の整備を行う。
- 商店街の建物、屋上に緑化の規定を創る。
- インターロッキング舗装の範囲を拡充し、まち全体に整った景観を形成する。



整備により人が集まる商店街へ

2. 駅前空間の活用による地域の賑わい創出

景観形成の考え方

緑と人の共存する景観づくりをおこない、駅前空間の再整備を行う。

具体的な方策

- 駅前空間の拡充を行う。広場南側に面する建築物で行われているセットバックを、西側の街路を挟んだ歩道でも同様に行う。
- 景観面・安全面の観点から、歩道の拡充を行う。駅周辺道路で、歩道の未整備や幅員不足の解消を目指す。
- 景観条例として、駅前の建築物の高さ制限と電柱の地中化・無電柱化を進める。圧迫感を解消すると共に景観的広がりを創る。



駅前空間の充実による利用促進

3. 奥沢の街並みと調和したみどりがつながる景観

景観形成の考え方

商店街の緑化を通じて、みどりをつなぎ、街路景観に潤いを増す。

具体的な方策

- 公共空間や商店街などの不特定多数の人が利用する場での緑化を進め、緑化への意識向上を促す。
- 角地、幹線道路沿いや商店街などの視認性の高い所に建物を保有している人はみどりへの理解を深め、積極的に取り入れる。

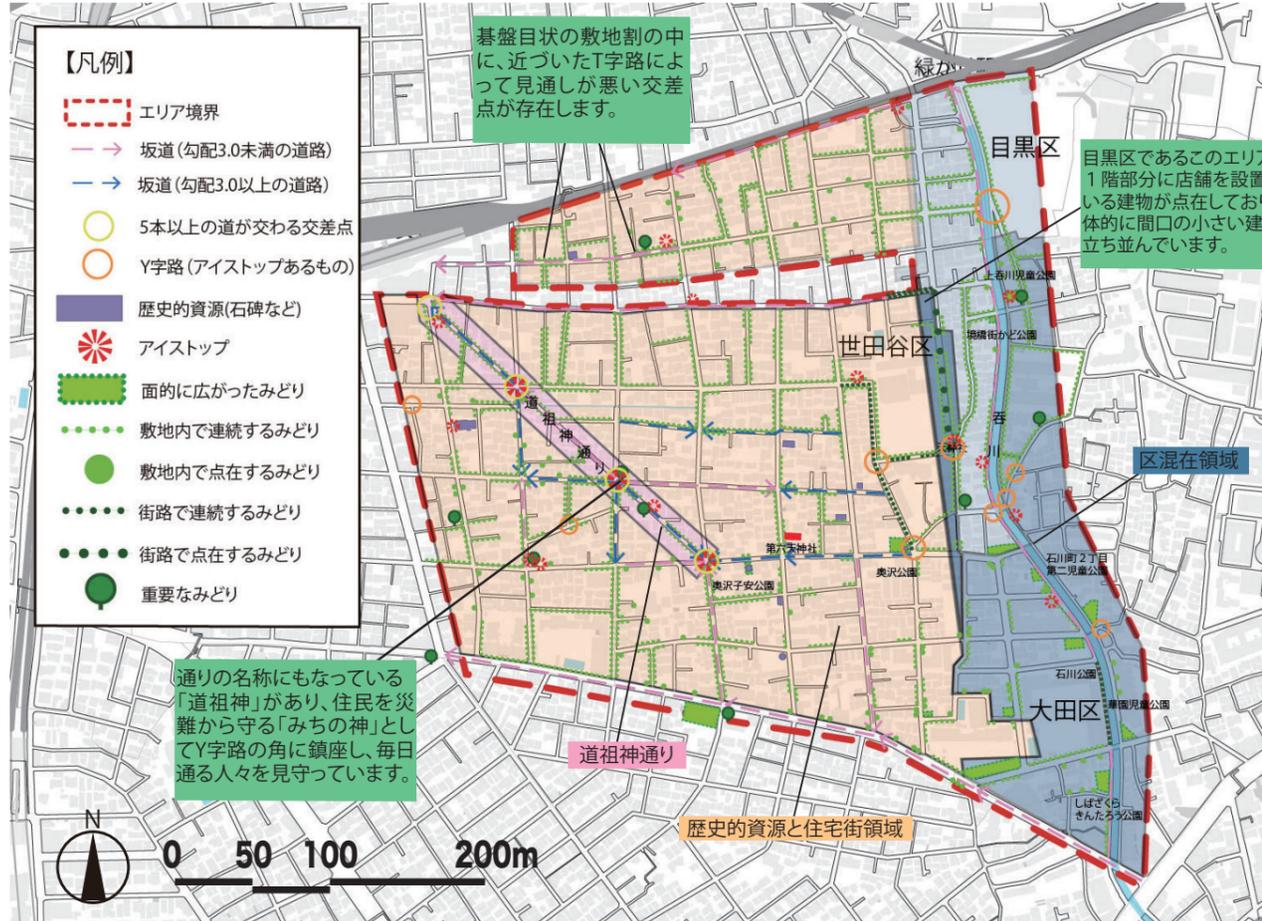


点在する緑をつなぐ

4-5 奥沢1・3丁目住宅街エリア

大正時代の玉川全円耕地整理によって整った道路基盤が基調のこのエリアは、土地の高低差や街路構成の変化などの特徴がみられます。また、呑川周辺は世田谷区、目黒区、大田区の3区が接しており、それぞれ土地利用や道路幅員などの区ごとに特徴的な景観となっています。閑静な住宅街に、点在する公園に見られる面的な緑や住宅に植えられている緑、川や緑道などの多くの自然があります。更に、庭先から溢れ出す緑によって、歩いているだけで自然をより身近に感じられ、エリアのイメージを形成する存在となっています。

景観特性



1. 緑と調和する街並み



界わい形成地区の共通方針である積極的な緑化が街並みを形成し、緑の効果が感じられます。高低差のある地形に低層住宅が広がるエリアであるとともに、周辺との調和を図った建物外観によって、繋がりのある景観となっています。また、街路や建築物に沿って植えられた緑によって、自然の連続性を感じられる景観づくりが施されています。

2. 斜行する道祖神通りが軸となる沿道 3. 川を起点に集まる3区



基盤目状の街区に対して斜めに交差するこの通りは、緩やかな勾配と、沿道に植えられた豊かな緑、歴史的資源である「道祖神」によって構成される重点エリアです。道祖神通りでは、角が道路に接する建物や多叉路が多く見られます。このような街路構成は、基盤目状に整った規則的な街並みに変化を与え、視覚的な新鮮さをもたらします。



3区の境界が集まっており、中心部を流れる呑川に沿って歩行空間と緑道が見られます。自然と歴史の調和がみられる世田谷区、店舗と住居で賑わいをみせる目黒区、ゆとりのある街路空間が印象的な大田区といった、同じ住宅街でも3区それぞれの特性がみられ、周辺エリアから川に向かって下る緩やかな傾斜や、自然要素が集まり増大した緑が存在感のある空間となっています。

景観形成の目標

連続する緑と変化する街路空間によって、歩きたくなる街並みへ

本エリアは、3区に跨る呑川と、重点通りである道祖神通りがある特徴的なエリアである。そこで、特徴的な街路と自然要素を守りながら歩いて楽しい街並みの形成を図る。

景観形成の方針

1. 緑の彩りと景観を調和させる街並みへ

景観形成の考え方

住宅全体に緑を連続させることによって、日常に緑を感じられるようにする。

具体的な方策

- 植栽の高さは、目線以下または2~3mの中木に限定し、常緑樹と落葉樹を組み合わせることで、四季の変化を感じられるようにする。
- 住宅において、道路に面している部分の緑化を徹底し、緑の連続性を途切れさせない。
- 既存の植栽を残す。



緑の連続性を途切れさせない

2. 通行人にとって歩いて楽しい街並みへ

景観形成の考え方

道祖神通りのアイストップとなる多叉路の突き当たり部分や歴史的資源などを活かした景観をつくる。

具体的な方策

- 多叉路などの視線が集中しやすい場所と、点在する小規模の歴史的資源の周辺をともにアイストップとなるように工夫する。
- 歴史的資源である道祖神周辺の緑化をやめ、妨げないような景観づくりをする。
- すみ切りが見られる建物や交差点はすみ切り線に合わせて壁面を工夫する。



道祖神を活かした景観をつくる

3. 見通しが良く、歩きやすい川沿い景観をつくる

景観形成の考え方

街灯の設置や舗装の工夫により、単調な景観に視覚的变化を与え、歩きやすい空間をつくる。

具体的な方策

- 路面に区章をモチーフとした柄を施すことなどで、変化を楽しめる歩行空間を作る。
- フェンスの色味を工夫することによって周辺との景観の調和を図る。
- 街灯や照明を設置し歩道と川に明るさをもたらすことで、安全に通行できるようにする。
- 橋から見た建築物や植栽での圧迫感が和らぐよう、橋詰周辺では樹種や樹高を考慮する。
- 川沿いの建築物は河川に対して正面性をもたせ、開口部を設ける。

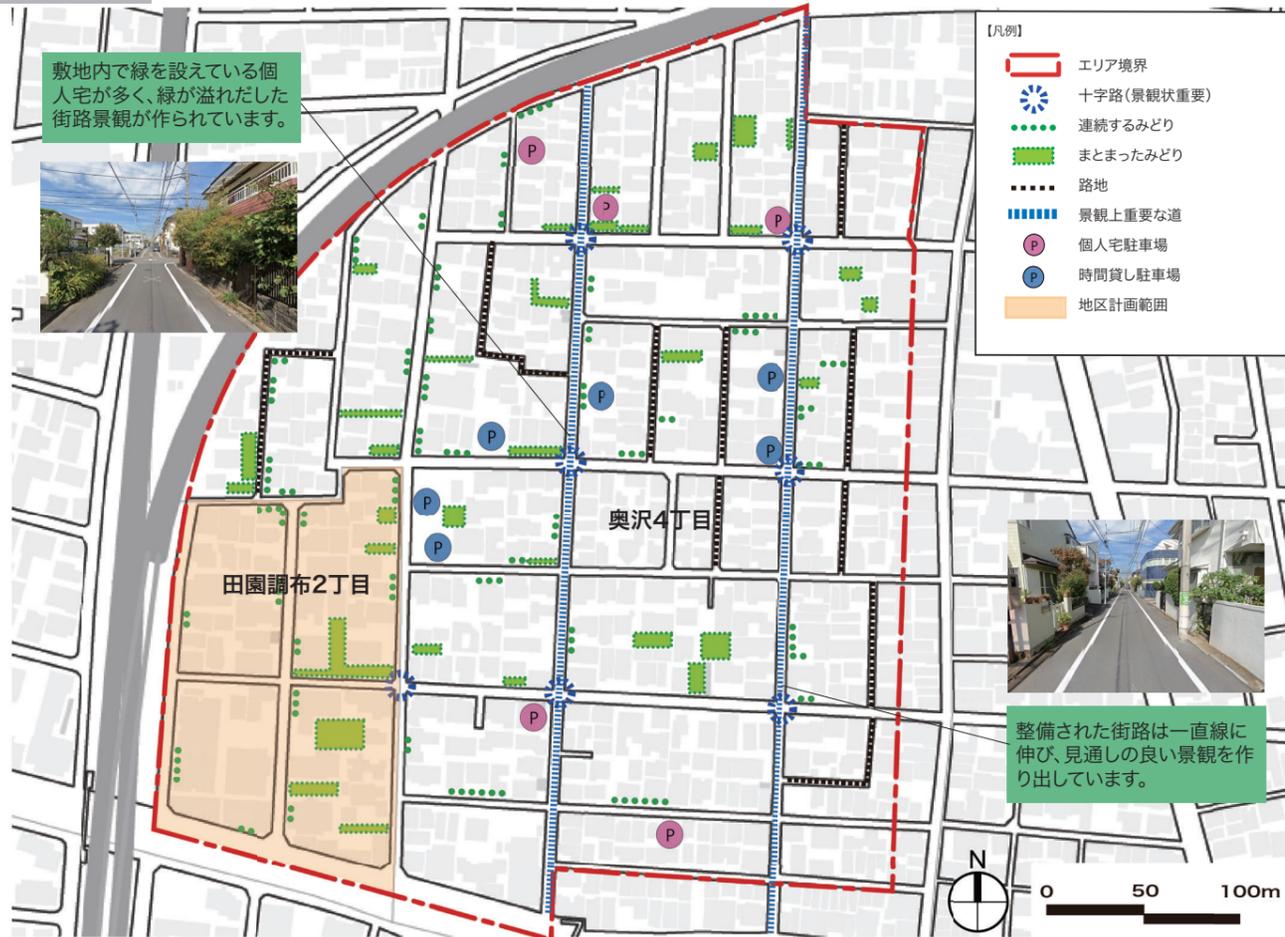


舗装と街灯により、歩きやすい景観をつくる

4-6 田園調布住宅街エリア

第一種低層住居専用地域と準住居地域で構成されている住宅街エリアです。坂道や高低差はほとんどなく、平坦な土地になっています。区画整理された直線的な街路構成や、住宅内の緑や街路に溢れだした緑によって、エリア内の連続的に緑化された景観が特徴的です。また、エリアの一部は玉川田園調布1.2丁目地区計画の範囲内であり、緑豊かな住環境の住宅市街地の形成を図るために建築物の敷地面積の最低限度や壁面の位置の制限、柵の構造の制限、敷地内の空地での緑化がされています。

景観特性



1.区画整理された住宅街



戸建住宅と低層集合住宅等の調和した緑豊かな住宅市街地です。玉川田園調布付近は地区計画による敷地に対するセットバックや隣地境界などの建築制限により、開けたゆりのある景観となっています。またその他の地域は、地区計画により直線の街路が整備されており、直線美が特徴的なエリアです。

2.道路に面した住宅内の緑



エリア内の多くの住宅は道路前面部に庭を所有しており、また住宅の敷地内に様々な樹木や植栽が点在しています。これらの緑は道路にもあふれ出しているため、エリア全体としての緑化が進み落ち着いた住宅街の雰囲気と連続的な緑の景観が特徴的です。

3.住宅街に点在する駐車場



個人宅の空きスペースを有効活用して、貸し出しをしている駐車場と、時間貸し駐車場があります。エリア内の特に中央帯では、時間貸し駐車場が多くみられます。これらによって、住宅が密集した地域内に視界が開けるような景観が広がっています。

景観形成の目標

直線的な街路空間と、みどり豊かな景観を活かした住宅地の形成

本エリアは、区画整理による直線的な街路と住宅の敷地内で整備され、街路に溢れだした緑によって作られる景観が特徴的である。本ガイドラインではこれらの特徴を保全、推進することでさらに魅力的な住宅地景観を形成することを目的とする。

景観形成の方針

1.直線的な道路を活かした景観づくり

景観形成の考え方

直線的な道路と緑が多い地域であるため、それを活かした景観をつくる。

具体的な方策

- アイスストップを整備することによって、視線が集まり、直線的美しさが強調させる
- 電柱を地中化することで、直線的な道路を際立たせる
- 沿道に生け垣などを設置することで沿道の水平方向を強調する



電柱の地中化とアイストップにより直線を強調

2.エリア全体の緑化を推進

景観形成の考え方

住宅敷地内の緑を保全・管理をし、本地域全体の緑化の推進を進めることで、エリア全体の落ち着いた景観を維持する。

具体的な方策

- エリア内にアイストップとなる樹木や植栽を整える
- 住宅内に積極的植栽を取り入れることで、エリア全体の緑化を図る
- 住宅の敷地外の道路に溢れ出している緑に規定を設けることで、歩行者が歩きやすい景観を作る



道路内で存在するアイストップ

3.密集住宅街の余白の維持と魅力度の向上

景観形成の考え方

主に駐車場によって生まれる視界の開ける余白的空間を維持し、更に景観としての魅力の向上を図る

具体的な方策

- 駐車場にベンチや敷地境界部分の植栽、シンボルとなる樹木等を設けることで、地域の資源としての魅力と豊かな景観を創出する
- 現在ある駐車場を維持することで空間的な余白を存続させる



駐車場内のくつろぎ空間と緑の創造